

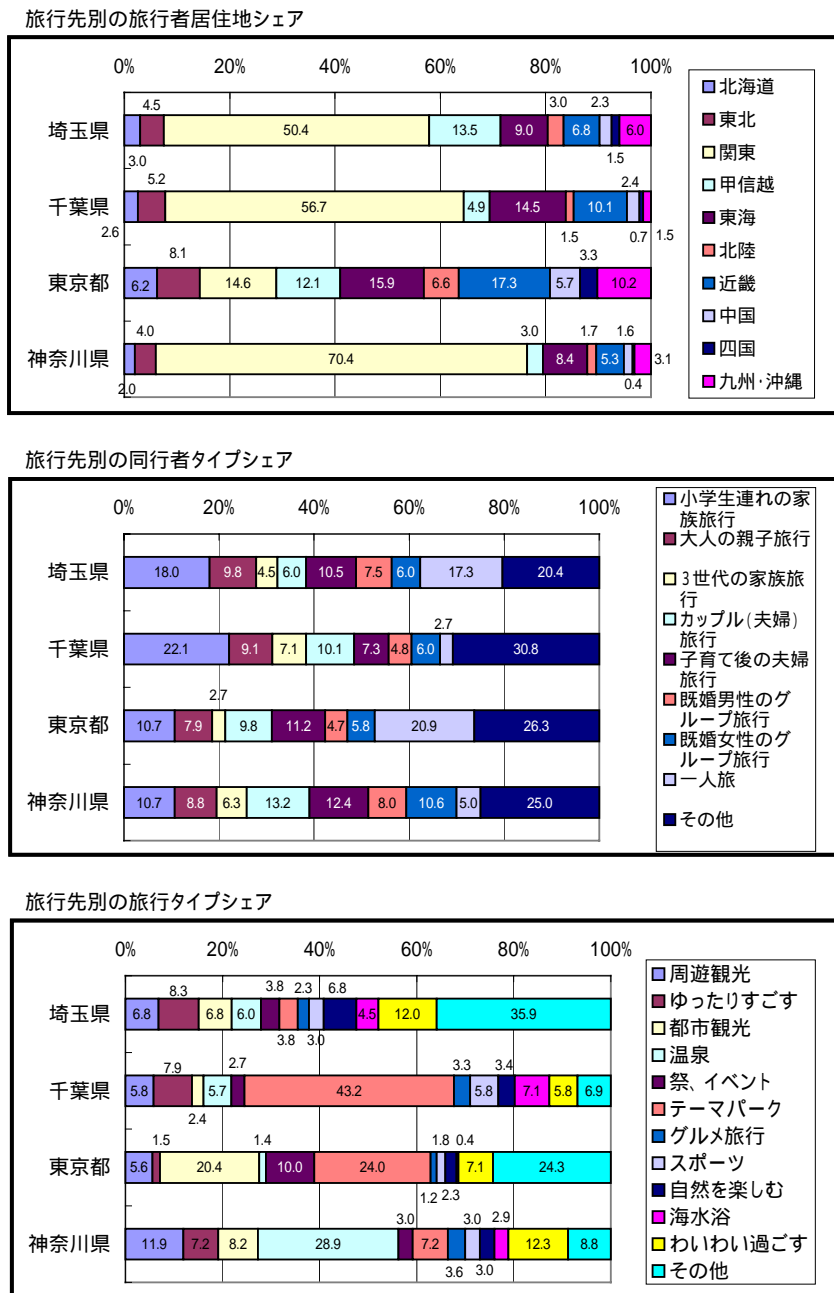
## 第2章 港区の観光マーケットニーズ ～ 1

### 1 国内観光客の観光行動

#### (1) 東京を訪れる宿泊観光客の分析

東京へは全国各地から宿泊観光客が来訪していますが、図表2-1からは関東・東海・近畿地方からの来訪が比較的多い傾向が伺えます。同行者のタイプは多様ですが、一人で来訪する旅行者が最も多く、次に家族連れ旅行者、子育て後の夫婦旅行者が続いています。

図表2-1 東京を訪れる観光客の特徴



(資料)財団法人日本交通公社「旅行者動向2003」平成15年7月

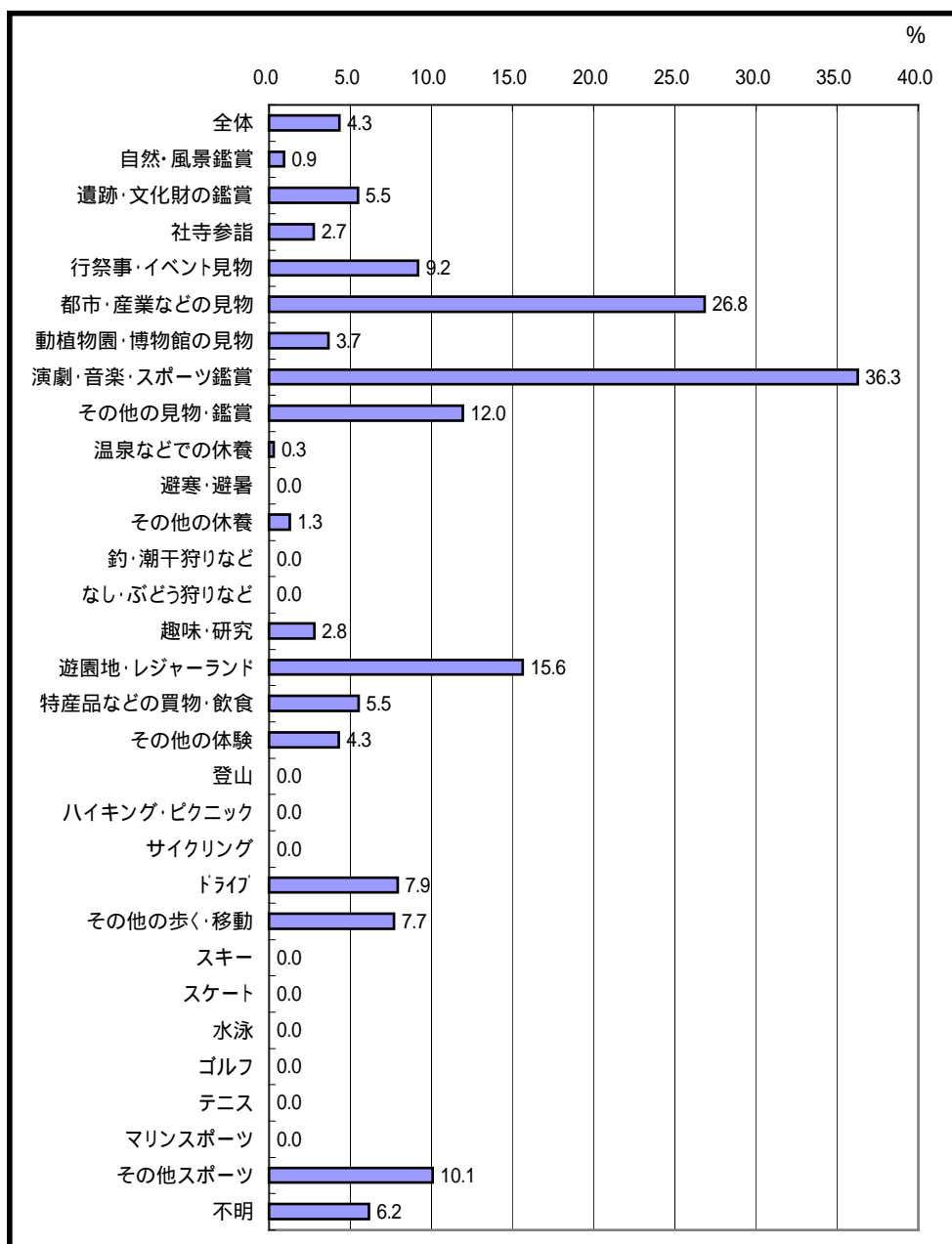
(注)四捨五入の関係で必ずしも合計が一致しない

東京を訪れる目的は、「都市観光（都市で楽しむ旅行）」、「テーマパーク（アミューズメント施設で遊ぶ）」が最も多く、次に「祭、イベント」が続いています。

一方、図表2-2の国土交通省による観光レクリエーション実態結果では、「演劇・音楽・スポーツ鑑賞」、「都市・産業などの見物」が最も多く、次に「遊園地・レジャーランド」が続いています。

二つの調査結果から、観光客は東京に対するアミューズメント性、先進性、話題性などを求めて来訪していることが伺え、この傾向は、港区が都心に位置し、都市景観やアミューズメント施設、演劇や音楽施設を有していることから、港区を訪問する宿泊観光客にも当てはまるものと考えられます。

図表2-2 宿泊観光旅行の行動別の東京を目的とする人の割合



(資料)国土交通省「観光レクリエーションの実態 - 第9回全国旅行動態調査報告書 - 」平成15年2月

## (2) 港区を訪れる観光客の調査結果

### 1) 調査概要

港区を訪れる観光客数及び観光客による区内消費額を推計するため、基礎データの把握及び観光客の行動実態と観光ニーズを把握することを目的に、インターネットを活用し、全国の20歳以上の男女(101,736人)を対象に、平成16年10月上旬にアンケート調査を行いました。この結果45,312人から回答が得られました。

さらに、港区を訪問した回答者(11,010人)の中から、性・年齢・地域別のバランスを考慮して400人を抽出し、二次調査を行いました。二次調査では全員から回答が得られました。

### 2) 調査項目と結果

#### ビジネス以外の旅行(観光、演劇・音楽等鑑賞、展示会見学等)での港区訪問の有無(平成15年9月から16年8月までの1年間)

一次調査回答者の24.3%が港区を訪問したと回答しています。性別の違いはみられず、年齢別には60歳以上で他の年代と比べて訪問者の割合が高い状況です。

地域別にみると、関東・甲信越は46.0%という高い訪問率となっていますが、その他の地域では14~18%台となっています。

図表2-3 港区への訪問経験(単位:%)

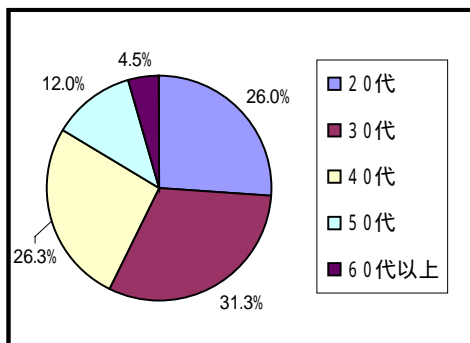
区分		訪問した	訪問しなかった
全体(45,312人)		24.3(11,010人)	75.7
性別	男性	23.8	76.2
	女性	24.9	75.1
年齢別	20代	25.3	74.7
	30代	22.9	77.1
	40代	21.7	78.3
	50代	26.0	74.0
	60歳以上	32.2	67.8
地域別	北海道・東北	17.1	82.9
	関東・甲信越	46.0	54.0
	東海・北陸	18.1	81.9
	近畿	14.7	85.3
	中国・四国	14.0	86.0
	九州・沖縄	14.6	85.4

#### 回答者の属性(以下、二次調査)

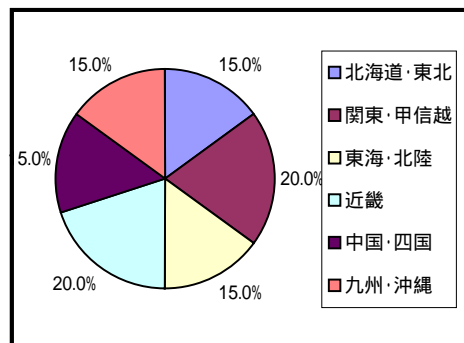
男性と女性の割合はそれぞれ50%です。20代から40代まではそれぞれ25%前後、50代が12%、60歳以上が4.5%です。

関東・甲信越及び近畿がそれぞれ20%、その他の地方はそれぞれ15%です。

図表 2 - 4 回答者の年齢



図表 2 - 5 回答者の居住地



(注) 四捨五入の関係で必ずしも合計が一致しない(以下、同様)

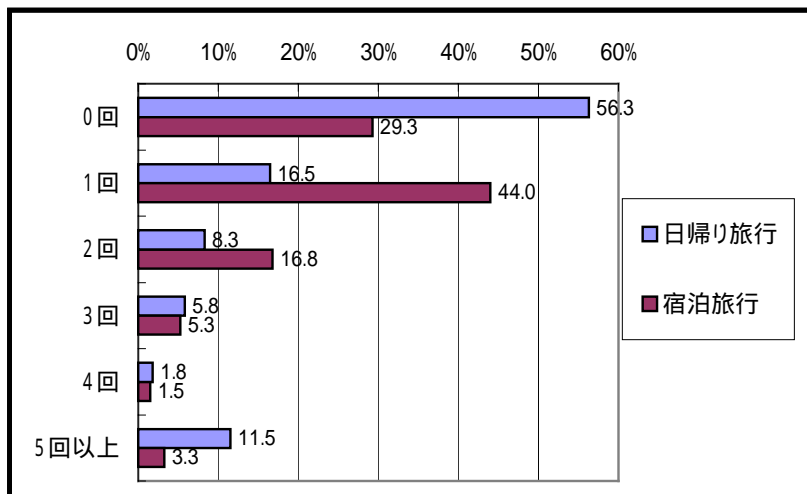
### ビジネス以外の旅行での港区訪問回数(平成15年9月から16年8月までの1年間)

1年間に日帰り旅行で港区を訪問した人は43.7%、宿泊旅行で訪問した人は70.7%であり、港区を訪問する観光客は宿泊客が多いことがわかります。

1人当たりの1年間の平均訪問回数は、日帰り旅行は1.15回、宿泊旅行は1.16回です。(5回以上を5回と設定して算出)

注)「ビジネス以外での旅行」としたため、帰省や冠婚葬祭、同窓会等での港区訪問の要素も含まれているものと考えられます。

図表 2 - 6 港区訪問回数(平成15年9月~16年8月)

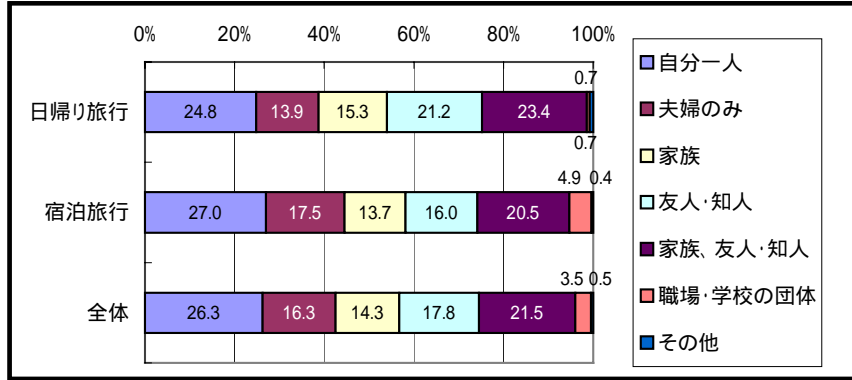


### 直近の旅行の同行者(以下、港区を訪問した直近の旅行について)

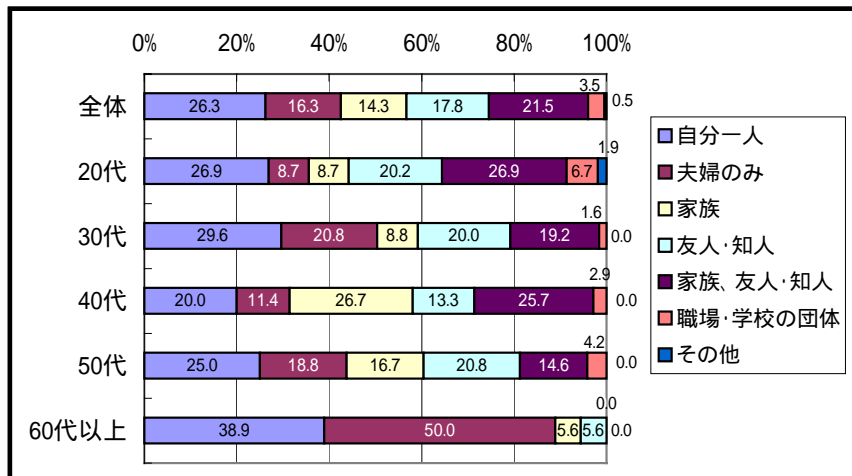
港区を訪問する旅行者は「自分一人」が最も多く、次に「家族や友人・知人と」、「友人・知人」、「夫婦」の順になっています。「自分一人」がやや多いですが、多様な形態で旅行が行なわれていることがわかります。

旅行の種類別にみても同行者の状況に違いはありませんが、年齢別にみると、20代は「自分一人」、「家族や友人・知人と」、30代は「自分一人」、40代は「家族」と「家族や友人・知人と」、50代は「自分一人」、60代以上は「自分一人」と「夫婦」の割合が高いことがわかります。

図表 2 - 7 直近の旅行の同行者（旅行種類別）



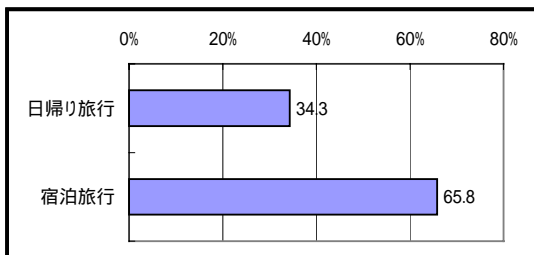
図表 2 - 8 直近の旅行の同行者（年齢別）



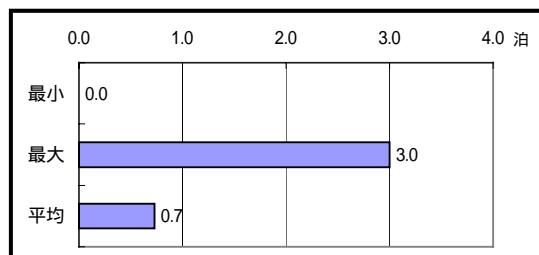
### 直近の旅行の内容

直近の旅行は日帰り旅行が 34.3%、宿泊旅行が 65.8%であり、回答者全体に占める港区内での平均宿泊数は 0.7 日になります。

図表 2 - 9 直近の旅行の種類



図表 2 - 10 港区での宿泊数

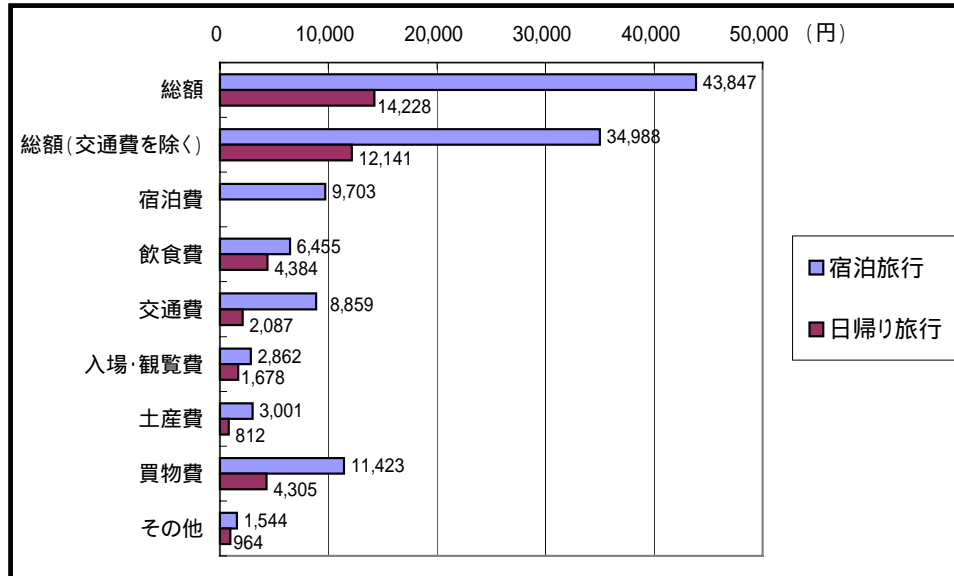


### 直近の旅行における一人あたり費用

直近の旅行における港区での一人あたりの消費額（自宅から港区までの費用が含まれている交通費を除く）は、日帰り旅行では 12,141 円、宿泊旅行では 34,988 円です。

内訳をみると、日帰り旅行、宿泊旅行ともに飲食費と買物費が多く、宿泊旅行では特に買物費が多くなっています。

図表 2 - 11 港区での一人当たり消費額



**「土産費」、「買物費」、「その他」の内容**

「土産」についてみると、回答者の約 5 割がテレビキャラクターや老舗、有名店の和洋菓子を購入し、約 4 割がテレビキャラクターなどの小物・雑貨を購入しています。土産としてはこの 2 種類でほとんどを占めます。

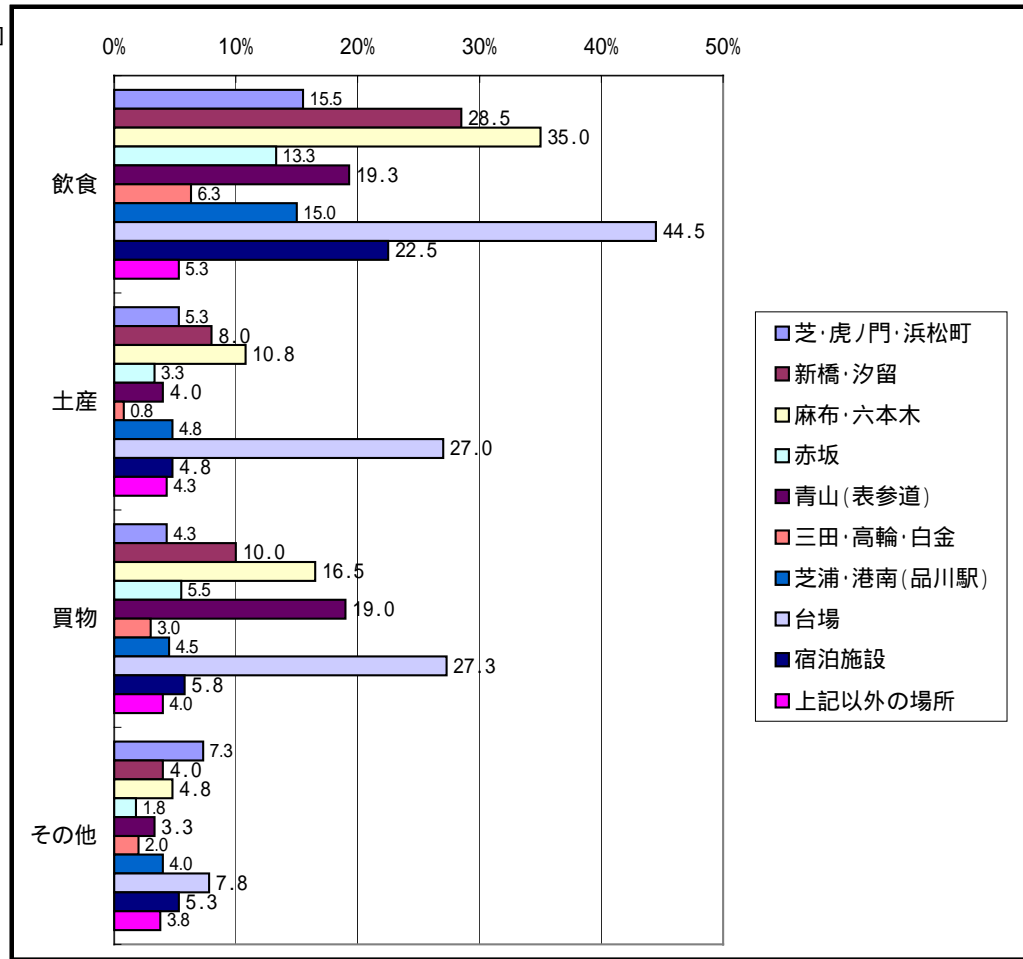
「買物」についてみると、洋服、小物・雑貨、食べ物・飲料を購入している人が多くなっています。

**区内の消費場所**

飲食は「台場」、「麻布・六本木」、「新橋・汐留」、土産品購入は「台場」、買物は「台場」、「青山(表参道)」、「麻布・六本木」で行われており、その他の地域での消費は少ない状況です。

「上記以外の場所」として区外があげられていますが、「台場」、「麻布・六本木」、「青山(表参道)」、「新橋・汐留」以外の地域と同じ程度消費されていることがわかります。

図表 2 - 12 区内での消費場所



**訪問経験・認知度・訪問意向**

**訪問経験・認知度**

観光客が訪れた観光資源の割合をみると、東京タワー、表参道・青山通り・骨董通り、芝公園、レインボーブリッジ、東京ジョイポリス・アクアシティお台場・デックス東京ビーチ、六本木ヒルズ、品川駅東口、六本木駅周辺繁華街、ゆりかもめ、水上バスは40%以上の訪問率になっています。次に高いのは、麻布十番商店街、神宮のイチョウ並木、汐留シオサイトで30～40%です。

年齢別でみると、60歳以上の観光客は他の年齢の観光客と比べて泉岳寺や増上寺を訪問する割合が高く、台場地区の観光資源の訪問率が低くなっています。その他の観光資源については、年齢別による大きな違いがないことがわかります。

行ったことがない人でもその場所をよく知っている人の割合（認知度）が高い観光資源は、迎賓館、東京タワー、レインボーブリッジ、東京ジョイポリス・アクアシティお台場・デックス東京ビーチ、六本木ヒルズ、汐留シオサイト、フジテレビ見学ツアー、ゆりかもめ、水上バス、屋形船・クルーズです。これ以外の観光資源の認知度はかなり低いといえます。

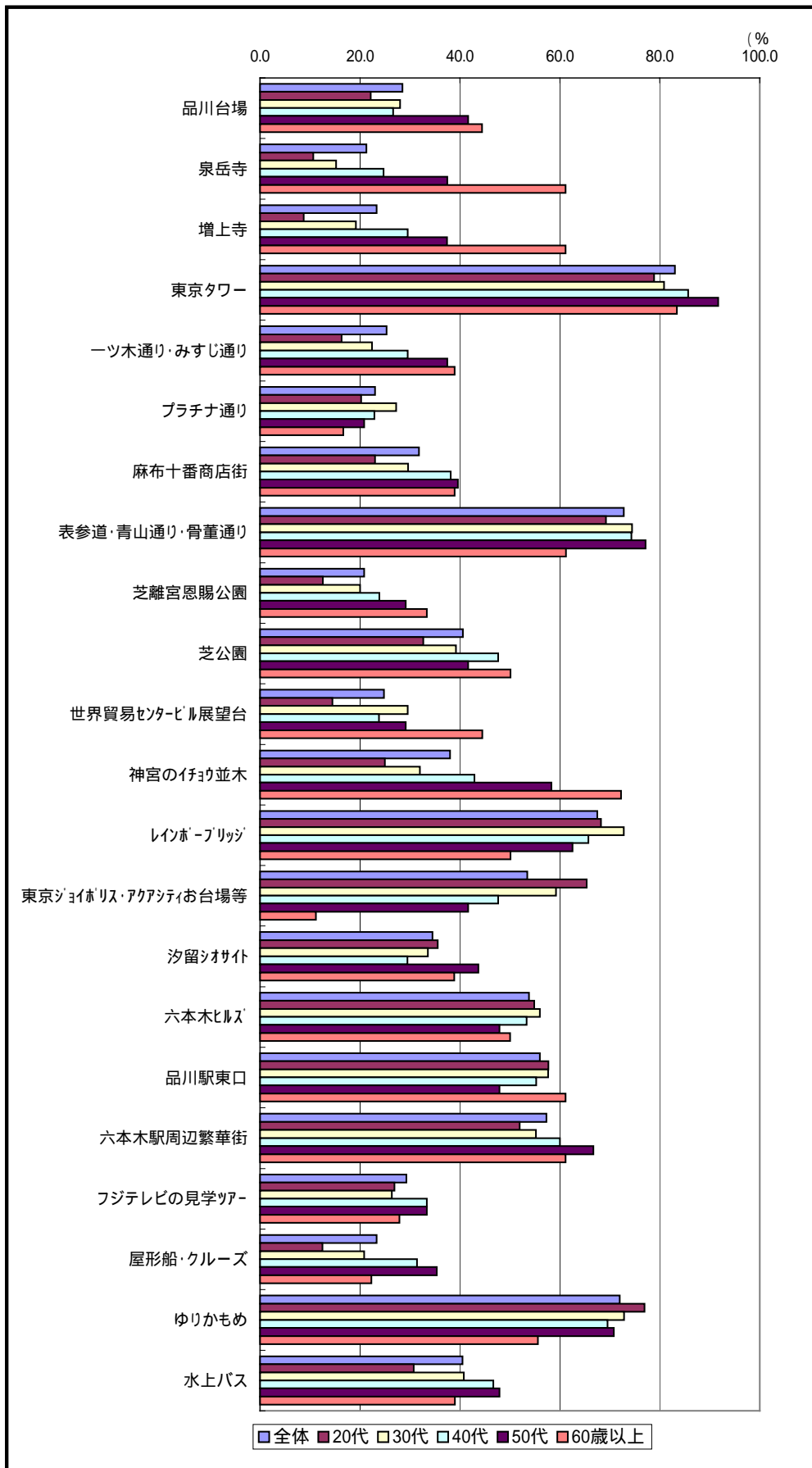
年齢別にみると、泉岳寺や増上寺は40代以上で、東京タワーは60歳以上で、

六本木ヒルズは50代で認知度が高いこと、フジテレビの見学ツアーは20代～40代で認知度が高く、50代以上で認知度が低いこと、屋形船・クルーズは20代及び60歳以上で認知度が高いこと、その他の観光資源では年齢別による大きな違いがみられないことがわかります。

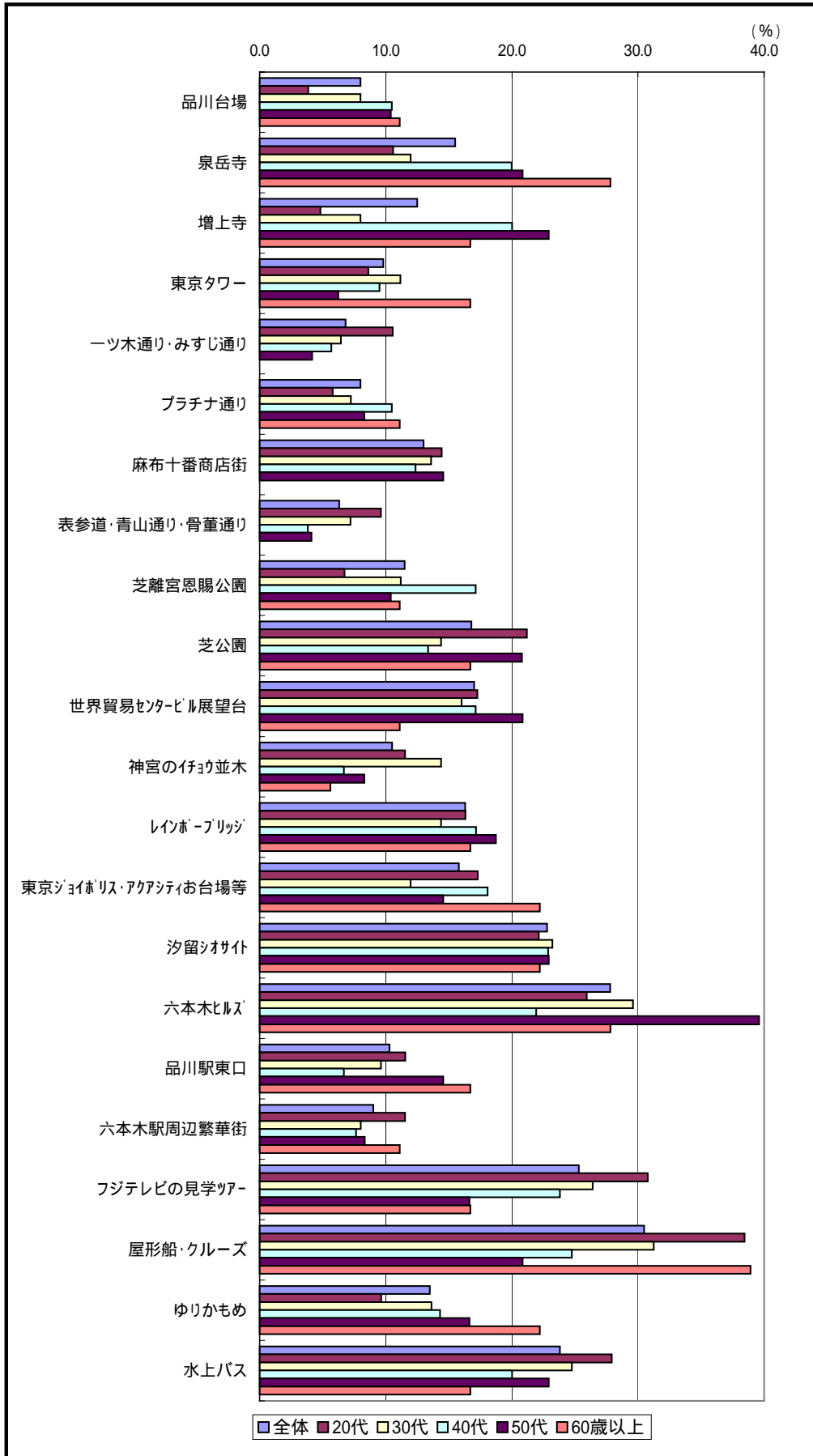
図表2 - 13 訪問経験（行ったことがある＋行ったことはあるがあまり知らない）

	20～30%未満	30～40%未満	40%以上
史跡	品川台場・泉岳寺		
神社・仏閣	増上寺		
近代建築			東京タワー
商店街・ショッピングストリート	一ツ木通り・みすじ通り・プラチナ通り	麻布十番商店街	表参道・青山通り・骨董通り
公園・庭園	芝離宮恩賜公園		芝公園
散歩道・景観スポット	世界貿易センタービル展望台	神宮のイチョウ並木	レイボ-ブリッジ
温泉・アミューズメント施設			東京ジョイポリス・アクアシティお台場等
再開発地域等		汐留シオサイト	六本木ヒルズ 品川駅東口 六本木駅周辺繁華街
美術館・博物館・資料館			
産業観光・体験プログラム	フジテレビの見学ツアー		
乗り物	屋形船・クルーズ		ゆりかもめ 水上バス

図表 2 - 14 年齢別訪問経験



図表 2 - 15 年齢別認知度（行ったことはないがよく知っている）



## 訪問の意向・関心

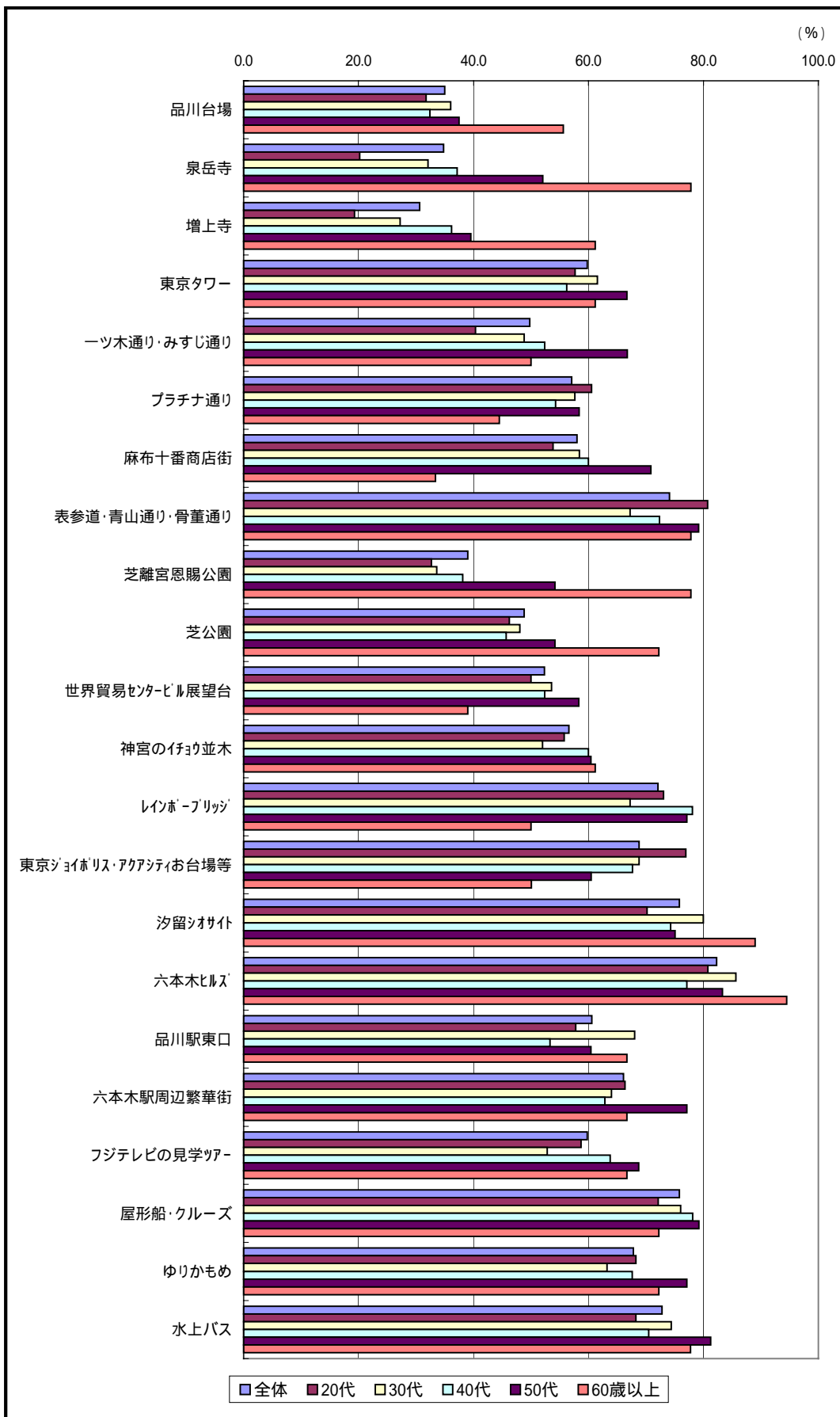
訪問の意向・関心が50%以上と高い割合の観光資源は、近代建築、ショッピングストリート、散歩道・景観スポット、温泉・アミューズメント施設、六本木ヒルズ等の再開発地域、乗り物です。逆に訪問意向・関心が低い観光資源は、史跡、神社、公園・庭園があげられます。

年齢別にみると、品川台場や泉岳寺、増上寺、芝離宮恩賜公園、芝公園は、他の年代と比べ60歳以上の観光客の訪問意向や関心が高くなっています。

図表2 - 16 訪問意向・関心（行ってみたい+行ってみたいもう少し知りたい）

	30～40%未満	40～50%未満	50%以上
史跡	旧乃木邸・乃木神社・乃木公園・丸山古墳、品川台場・泉岳寺		
神社・仏閣	増上寺		
近代建築	慶応大学図書館		迎賓館・東京タワー プラダ青山ビル
商店街・ショッピングストリート			麻布十番商店街 一ツ木通り・みすじ通り 表参道・青山通り・骨董通り・プラチナ通り
公園・庭園	有栖川宮記念公園 旧芝離宮恩賜公園 国立科学博物館附属自然教育園	芝公園	
散歩道・景観スポット		アークガーデンとさくら坂、運河沿い緑地の散歩道	世界貿易センタービル展望台 レインボープリッジ 神宮のイチョウ並木
温泉・アミューズメント施設		俳優座劇場	麻布十番温泉 東京ジョイポリス・アクアシティお台場・テックス東京ビーチ 四季劇場・電通四季劇場・自由劇場
再開発地域等			六本木ヒルズ 汐留シオサイト 品川駅東口 六本木駅周辺繁華街
美術館・博物館・資料館	岡本太郎記念館 東京都庭園美術館 根津美術館	NHK放送博物館 森美術館 食肉市場・お肉の博物館	サントリー美術館
産業観光・体験プログラム			フジテレビの見学ツアー
乗り物			ゆりかもめ 水上バス 屋形船・クルーズ

図表 2 - 17 年齢別訪問意向・関心



## 港区を訪れた時に感じたこと

多くの観光客は、区内の店舗や観光施設、街の景観や環境、街の雰囲気などに対し好印象を持ち、交通機関の利便性について評価をしています。また、多くの人が再訪問したい、楽しかったという評価をしていますが、一方で、観光施設での入場料や食事代等物価の高さ、人が多すぎること、道路の渋滞や駐車場整備、交通案内については不満を持っています。

地域別にみると、台場地区、六本木ヒルズ、品川駅東口地区に対しては不満よりは評価の方が多いですが、汐留地区に対しては、「雑誌で紹介されているほど面白くなかった」、「思ったよりも観光するところがなく、退屈だった。地下通路もわかりにくく、階段も多くてスマートじゃなかった」などという不満がでています。

### 3) アンケート調査のまとめ

アンケート調査から、次のような観光行動が分析できます。

日帰りより宿泊客が多いが、宿泊先は区外が多くなっています。港区内の宿泊だけに限定すれば日帰り旅行者が多いと考えられます。

飲食や買物にかかる費用が多く、特定の地域で消費が行われています。

東京タワー、表参道・青山通り、レインボブリッジ、台場地区、六本木ヒルズ、六本木駅周辺繁華街など、新聞やテレビ、旅行雑誌によく取り上げられる観光資源への訪問率・認知度が高くなっています(すなわち、特定の観光資源へ観光客が集中していること)。

泉岳寺、増上寺、芝離宮恩賜公園、芝公園など、港区の歴史・文化資源である史跡、神社、公園・庭園に対する高齢者の訪問意向や関心が高く、台場地区の観光資源の訪問率が低くなっています。その他の観光資源については年齢別の大きな違いはありません。

60歳代を含めたさまざまな年代の観光行動を把握するため、アンケート調査結果に平成15年度に港区観光協会が実施した「港区観光資源調査報告書」の年代別観光行動やリピート傾向を整理すると次の内容が追加できます。

滞在時間や宿泊数、交通手段、訪問経験などほとんどの項目について大きな違いはみられませんが、立ち寄り場所については違いがみられます。

「20～30代の若年女性層」、「30～50代の家族層」は台場地区、六本木、芝、青山、麻布を訪問し、「60～70代の熟年層」は高輪、麻布を訪問しています。

リピートについては、3～5回と答えた回答者が41.7%と最も多く、10回以上のリピーターは33.0%、6～9回は10.9%でした。また、次回も来たいとする意向は、各年代で約9割をしめています。これらからすると、港区の観光施設へのリピート傾向は高いと考えられます。

訪問のきっかけは、「思いついて」30.8%、「テレビをみて」16.9%、「雑誌をみて」9.4%、「インターネット・新聞・本を読んで」が各3～5.6%

を占めています。マスコミが港区のさまざまな観光スポットを取り上げていることやテレビドラマ等の撮影地になっていることが、訪問の要因と考えられます。

両調査結果から、高齢者の観光客が求める訪問先と高齢者以外の観光客が求める訪問先は違うことから、こうした特性を踏まえたきめ細かな観光施策の組み立てが必要になります。

図表 2 - 18 港区における旅行者の行動分析

	若年女性層 (20・30代の女性同士 で訪れる層)	家族層 (30～50代の家族で 訪れる層)	熟年層 (60～70代の層)
調査人数	119人	68人	33人
滞在時間	半日～1日	半日～1日	半日～1日
宿泊数	1～2泊	2泊	1～2泊
交通手段	電車、地下鉄	電車、地下鉄、自家用車	電車、地下鉄、バス
訪問経験	7割	7割	7割
訪れたきっかけ	友人などの話 ふと思いついた テレビを見て	ふと思いついた テレビを見て	友人などの話 新聞を見て ふと思いついた
情報収集源	友人などの話 ガイドブック	インターネット ガイドブック	友人などの話 新聞
利用情報内容	場所・位置 飲食店	場所・位置 目的地までの行き 方・交通手段	場所・位置 飲食店
立ち寄り場所数	8割が1カ所	6割が1カ所 3割が2カ所	6割が1カ所 3割が2カ所
立ち寄り場所	台場 六本木 青山	芝 台場 麻布	高輪 麻布
滞在中の問題点	無料休憩所がない 地図・パンフレット がない	交通が複雑 地図・パンフレット がない	史跡・寺社の案内表 示が不足している 地図・パンフレット がない
次回訪問意向	9割	9割	9割
港区のイメージ	六本木ヒルズ 台場 東京タワー	東京タワー 台場	東京タワー 六本木ヒルズ

(資料) 港区観光協会「港区観光資源調査報告書」平成16年3月

### (3) 修学旅行の現状と施策の考え方

#### 1) 旅行先と目的

日本修学旅行協会の調査によると、修学旅行実施校のうち、東京を訪れた学校の割合は、中学校で26.8%、高等学校で14.9%となっており、主に中学生

が修学旅行で東京を訪問しています。(図表 2 - 19)

地域別にみると、中学校では東北、中部、近畿から、高等学校では北海道、九州・沖縄から多くの学校が訪問していることがわかります。(図表 2 - 20) 同協会の調査によると、修学旅行の主な目的は、中学校では「集団生活訓練」と「歴史学習」及び「学校生活の良き思い出づくり」、高校では「集団生活訓練」と「人間関係を深める」及び「学校生活の良き思い出づくり」となっています。(図表 2 - 21)

## 2) 体験学習と訪問先

修学旅行における体験学習の内容は、中学校では「民芸品、伝統工芸、ガラス細工等」、「焼物、陶磁器の絵付け等」が多く、高校では「陶器の絵付け」、「マリンスポーツ、カヌー、ダイビング」、「自然体験、釣り、ホエールウォッチング」が多い(図表 2 - 22)ですが、東京では、清掃工場見学、商店街見学、江戸の伝統芸能の学習、手作りせんべい焼き、ガラス細工、防災体験、台場で情報化社会の講話、老人ホーム見学、ガラスに砂を吹きかけて作品をつくるサンドブラスト、ホテルで職場見学(以上中学校)、企業見学(高等学校)などが行われています。

また、訪問先ベスト 20 をみると、中学校では、東京タワー、劇団四季、フジテレビが 20 位以内に入っています。(図表 2 - 23)

修学旅行の実施スタイルでは、バスを使う団体行動から、グループで目的地や行動計画を決定する手法に変化しています。

### 【麻布十番商店街に中学校の修学旅行生訪問】

麻布十番商店街において、4 年前から三重県伊勢市の近くの中学校が修学旅行で商店街見学に来るようになりました。当初は 10 人程度でしたが、昨年は 20 人のグループになり、中学生たちは、商店街を見た後、六本木、渋谷、原宿に行っています。

後日、中学生達から届いた手紙の中に、「家の近くには商店街がないのでとても面白かった。」ということが書かれているように、中学生にとっては、自宅の近くでは見られない麻布十番商店街が「非日常」であり、それが中学生にとって面白い資源となっています。

## 3) 観光施策の対象としての捉え方

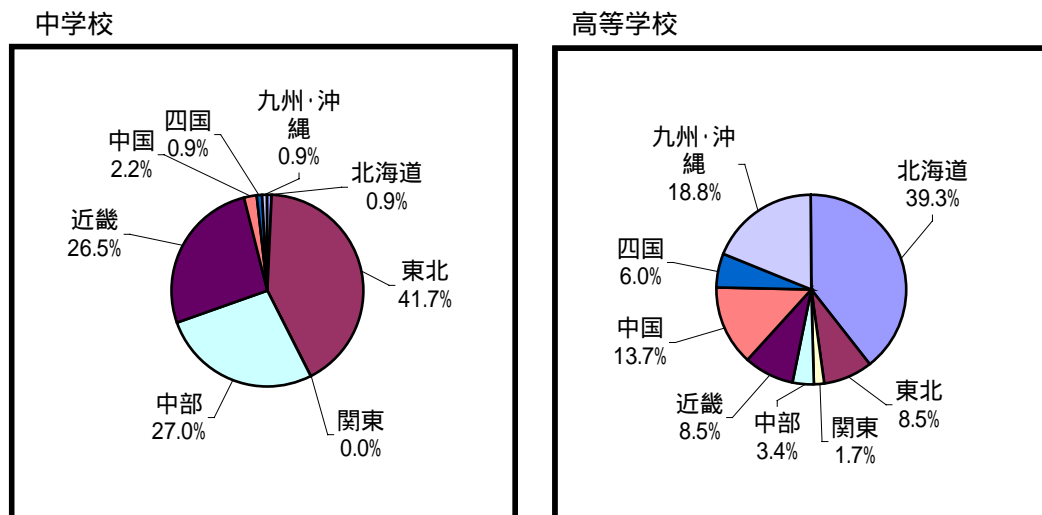
修学旅行で使われる土産代は、中学生で 1 万円～1.5 万円、高校生で 2 万円前後です。修学旅行の実施時期も中学生は 10 月、高校生は 5 月がもっとも多く、季節的です。また、宿泊場所は港区外がほとんどであり、港区内での滞在時間も多くないと考えられます。さらに、修学旅行そのものが集団生活や歴史学習を目的にしていることから、区内の経済効果を高める施策の対象とするよりも、日本修学旅行協会を通して港区にある史跡や観光情報、観光マップ等を提供していくことが重要です。

図表 2 - 19 東京への修学旅行実施校の状況

	中学校	高等学校	全体
修学旅行実施校数	858	785	1,643
東京への旅行校数	230	117	347
割合 (%)	26.8	14.9	21.1

(資料) 日本修学旅行協会「全国中学校修学旅行の実態(平成14年度実施) 平成15年11月」  
日本修学旅行協会「全国高等学校修学旅行の実態(平成13年度実施)」平成14年11月

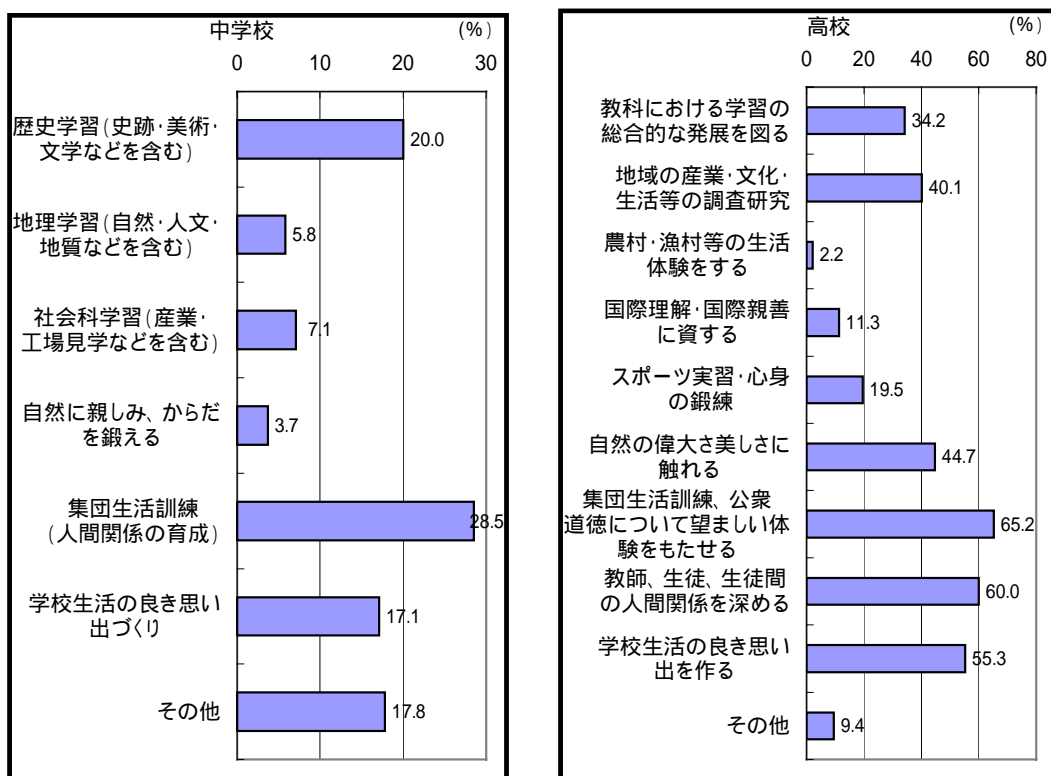
図表 2 - 20 東京への修学旅行実施地域の状況



(資料) 日本修学旅行協会「全国中学校修学旅行の実態(平成14年度実施) 平成15年11月」  
日本修学旅行協会「全国高等学校修学旅行の実態(平成13年度実施)」平成14年11月

(注) 四捨五入の関係で必ずしも合計が一致しない(以下、同様)

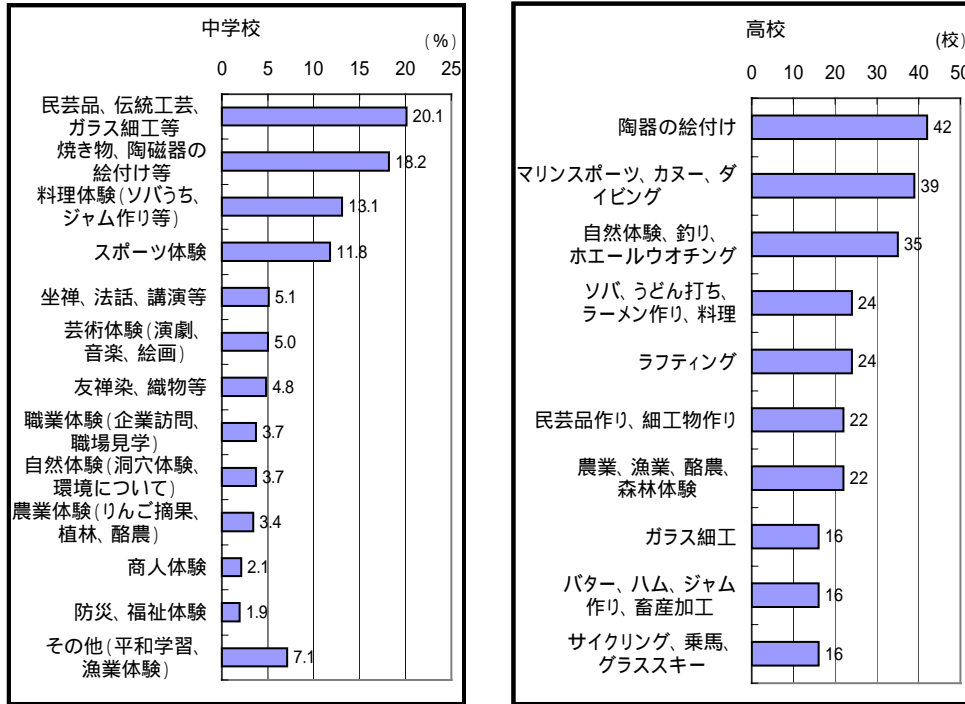
図表 2 - 21 修学旅行の目的



(注) 上記7項目より3項目以内を選択  
(資料) (財)日本修学旅行協会「修学旅行のすべて2004」

(注) 上記項目より4項目を選択

図表 2 - 22 体験学習の内容



(資料) (財)日本修学旅行協会「修学旅行のすべて2004」

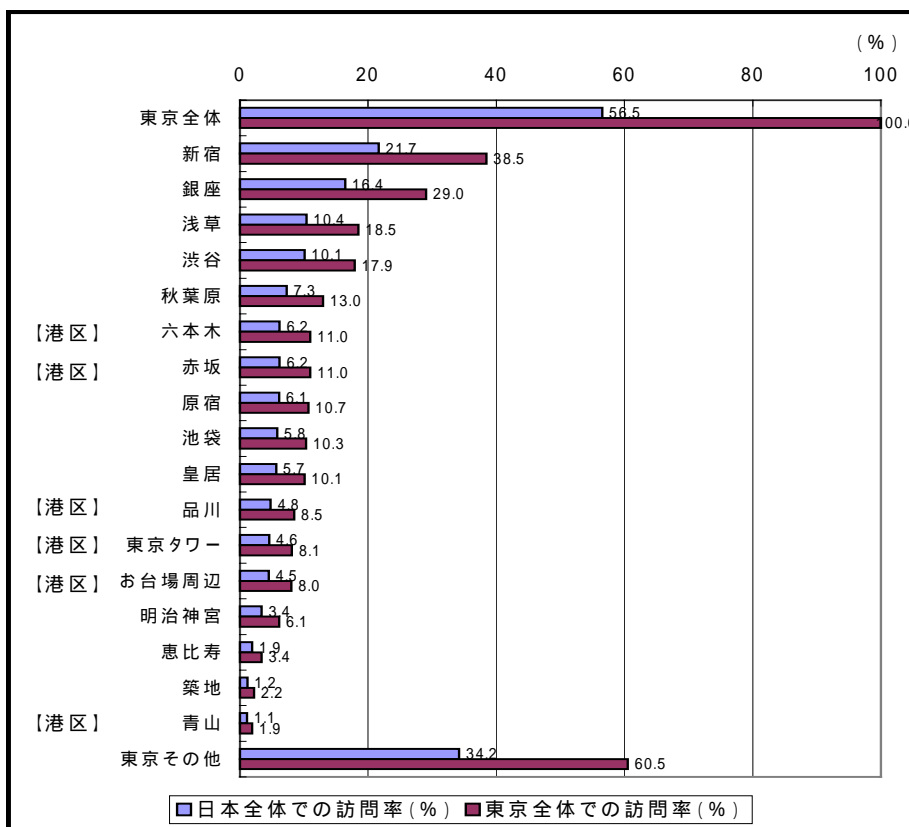
図表 2 - 23 見学地ベスト 20

順位	中学校	高校
1	東京ディズニーリゾート	USJ
2	清水寺	東京ディズニーランド・シー
3	東大寺大仏殿	清水寺
4	法隆寺	ハウステンボス
5	国会議事堂	大宰府天満宮
6	金閣寺	長崎原爆資料館
7	ユニバーサルスタジオジャパン	薬師寺
8	三十三間堂	長崎平和記念公園
9	銀閣寺	金閣寺
10	二条城	広島平和記念公園
11	薬師寺	法隆寺
12	浅草仲見世、浅草寺	東大寺大仏殿
13	東京タワー	奈良公園
14	上野公園周辺	ひめゆりの塔
15	長崎原爆資料館	首里城
16	長崎平和公園	吉野ケ里遺跡
17	劇団四季	阿蘇山・火口
18	海遊館	国際通り
19	フジテレビ	首里城公園
20	興福寺、国宝館 広島平和記念公園	糸数壕

(資料) (財)日本修学旅行協会「修学旅行のすべて2004」

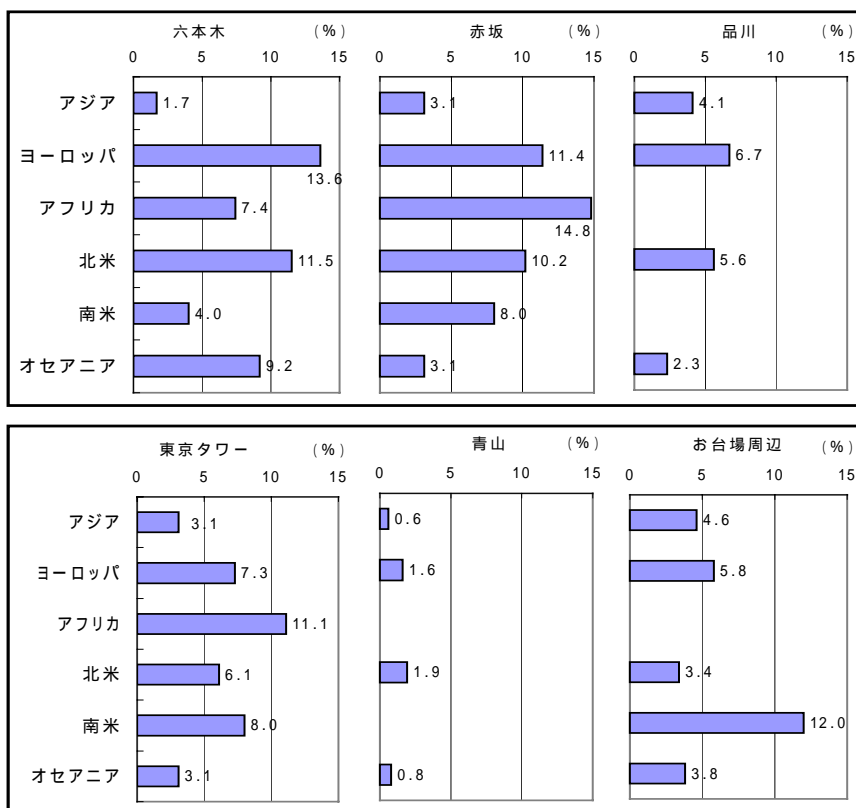


図表2 - 2 4 東京における訪日外客数（平成14年、複数回答、通年）



\*1 調査回答者数全体のうち、各訪問地を訪問した回答者の占める割合  
 \*2 東京都を訪問した回答者数全体のうち、当該域内の各訪問地を訪問した回答者の占める割合  
 (資料) (特)国際観光振興会「訪日外国人旅行者調査 2001 - 2002」

図表2 - 2 5 港区を訪問する訪日外国人の州別割合



(資料) (特)国際観光振興会「訪日外国人旅行者調査2001-2002」